

西濃農林事務所の普及活動状況（令和6年11月）

今月の重点活動

■大豆 令和6年度大豆現地検討会及び東海大豆現地検討会 in 岐阜の開催

11月20日、2つの大豆検討会がJAにしみの本店で開催された。

午前中はJAにしみのの生産者や関係機関が参集し、大豆現地検討会が行われた。農林事務所からは大豆の生育状況について説明を行い、農薬メーカーからは害虫防除対策、全農岐阜からは大豆情勢について情報提供が行われた。

午後からは、管外や他県からの生産者等が合流し、東海大豆現地検討会 in 岐阜が行われた。室内研修では、(株) あいち研醸社、農研機構、農業経営課から講演が行われた。その後、現地（海津市）に移動し、新品種「そらみのり」実証ほにおいて、農林事務所から生育状況などの説明を行った。

今後、農林事務所は大豆の適期収穫に向けて支援を行っていく。



【東海大豆現地検討会】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー ブロック独自でPRチラシを作製

西濃地域では、担い手リーダーである女性農業経営アドバイザーの会員数が年々減少しており、新たな会員確保が課題となっている。そこで、西濃ブロック独自でPRチラシを作製することとなり、農林事務所はチラシ作製の支援を行った。

作製したチラシは県の女性農業経営アドバイザー役員会でも紹介したところ、大変好評であった。今後、作製したチラシは市町や、JAの各生産部会の研修会などでの配布を予定している。

農林事務所では、女性農業経営アドバイザーの会員数が確保できるよう、支援していく。



【作成したPRチラシ】

■青年農業士 西濃青年農業士会農業研修会を開催

11月13日、西濃総合庁舎において、西濃青年農業士会の主催で外国人雇用についての研修を行った。青年農業士、にしみの梨塾の生産者、関係者含め13名が参加した。

ぎふアグリチャレンジ支援センターの協力を得て、関連事業にかかわる企業等を講師に迎え、国内の農業分野における雇用の現状と外国人雇用にかかる制度や課題に加え、具体的な雇用事例を学ぶことができた。参加者からは、多数の質問があり、外国人の雇用に対して関心が高いことが伺われた。

今後も農林事務所は、研修会や視察等の活動を通して、青年農業士会の活動を支援していく。



【室内研修の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 営農計画管理調査事業の検討

10月31日、J Aにしみの本店にて、(有)興農社、J A、農林事務所が出席し、東海農政局と令和8年度営農計画管理調査事業について、打ち合わせを行った。

当事業は、西濃用水第三期地区で生じている課題に対し、効率的に事業実施できるよう調査を行うものである。今回、農林事務所の案をもとに、神戸町で大豆の湿害対策に係る技術実証を行うことで検討を行った。

事業採択の確定は次年度であるが、計画作成等に向けてJ Aと協力して行っていく。



【打ち合わせ風景】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■稲ワラ・営農組織 稲ワラ収集と出荷が本格化

養老町では、水稻の収穫が一段落し、水田から肥育牛で利用する稲ワラの採取及び出荷が本格化している。

稲ワラは、県内では東濃・飛騨地域、三重県の肥育牛農家へ年間900～1,100t供給されているが、稲ワラを採取した影響で主食用米では屑米が約2割発生し(90～120kg/10a)、技術対策の相談を受けている。

このため、J Aと農林事務所で連携し、ケイ酸及び加里成分の土づくり資材を冬季に施肥することを提案し、助言している。



【稲ワラの収集】

■いちご 栽培研修会の開催

11月12日に池辺苺組合にて、11月14日に海津いちご部会にて、11月19日に平田町苺園芸組合にて、栽培研修会が開催された。

生産者、市場、J Aで全会員のほ場を巡回し、生育状況や病害虫の発生状況の確認を行った。一部出荷している生産者もいるが、夏の猛暑の影響で出荷が揃うのは12月20日頃と平年に比べ非常に遅い。農林事務所は、2番果の出蕾状況や今後の草勢管理について説明を行った。

農林事務所では、引き続き安定出荷できるよう支援を行っていく。



【研修会の様子】

■フランネルフラワー 蕾径調査による開花予測

10月28日より、垂井町の切花フランネル生産者ほ場において、蕾径調査による開花予測に取り組んでいる。

9月に行った調査では、虫による被害が発生し、調査終了となった株が発生した。現在は虫による被害も無く、順調である。

農林事務所は、令和5年度に行った調査では得られなかったデータを充実させ、有利販売につながる情報提供ができるよう調査を行っていく。



【蕾径調査の様子】